Ⅱ　管理・運営概要

（平成30年３月31日現在）

１．理事・監事・評議員

理　　事（８名）		
（理　事　長）	大坪　孝雄	王子製紙(株)名誉会長
（理事長補佐）	佐々木達夫	金沢大学名誉教授
（業務執行理事）	左納　徹郎	(公財)古代学協会
（業務執行理事）	麻森　敦子	(公財)古代学協会
	米田　雄介	(公財)古代学協会、元正倉院事務所所長、神戸女子大学名誉教授
	髙梨誠三郎	(公財)髙梨学術奨励基金理事長
	斎藤　史郎	(公社)日本経済研究センター参与
	角田玖賀子	(株)第二福島トヨタビル取締役社長
監　　事（２名）	荒鹿　哲一	弁護士
	小川　泰彦	公認会計士・税理士
評 議 員（５名）		
（評議員会長）	福岡　美彦	(公社)日本ＷＨＯ協会理事
	龍谷　　寿	同志社女子大学名誉教授
	絹川　　定	(株)公成建設取締役相談役
	下條　信行	愛媛大学名誉教授
	西村　　勝	柊屋(株)代表取締役社長
	森田　雅之	京都成蹊法律事務所所長

２．顧問等

顧　　問	坂詰　秀一	立正大学名誉教授、元品川区立品川歴史館館長、元立正大学学長
	白石太一郎	国立歴史民俗博物館名誉教授、近つ飛鳥博物館館長
	柏原　康夫	(株)京都銀行取締役相談役
	角川　歴彦	(株)ＫＡＤＯＫＡＷＡ取締役会長
	紺野　敏文	慶應義塾大学名誉教授
	中井　義明	同志社大学教授
	渡辺　　誠	名古屋大学名誉教授

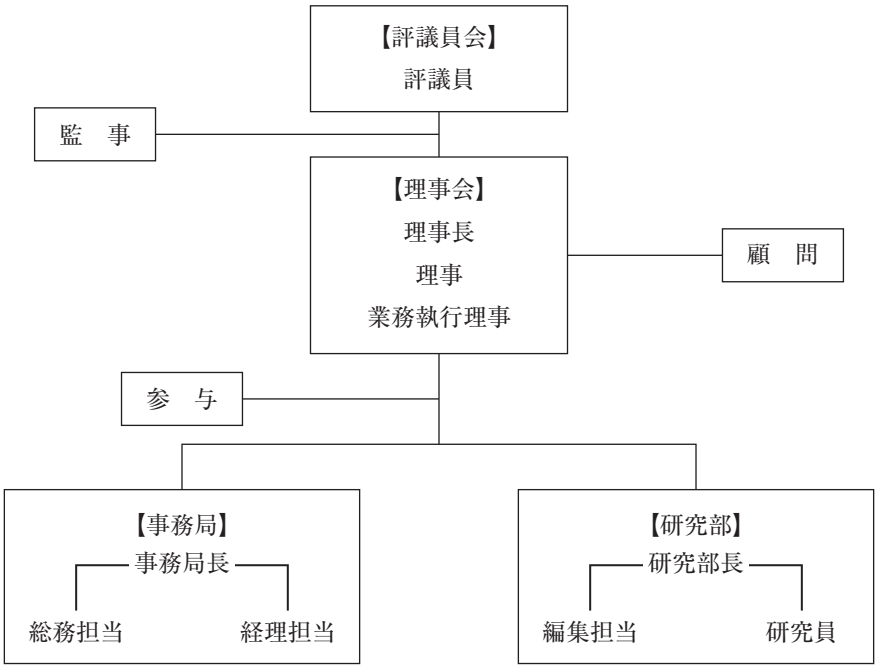
参　与　　西井　芳子　元(公財)古代学協会常務理事
山田　邦和　同志社女子大学教授
吉川　真司　京都大学教授

3．職　員

【研究部】　研究部長：米田　雄介
研究員：鈴木　忠司、古藤　真平
客員研究員：佐々木達夫、森岡　秀人、石井　清司、植山　茂、市川　創、辻村　純代、藤本　孝一

【事務局】　事務局長：左納　徹郎
事務局次長：麻森　敦子
経理主任：徳永　裕
山﨑　千春、矢幡　由紀、志谷紀美子、横大路綾子、竹内　千津

4．組　織



5．施　　設

京都文化博物館別館（旧日本銀行京都支店）

所在地：京都市中京区三条通高倉西入ル
　　菱屋町48番地

1906（明治39）年に日本銀行京都支店として建設されたこの建物は、当時日本第一の設計者といわれ、日本銀行本店、東京駅などを設計した、東京帝国大学工科大学教授辰野金吾博士が日本銀行建築部技師長の長野宇平治博士と共に設計した。辰野式ルネサンスの名で呼ばれた彼の様式が発揮された建物である。

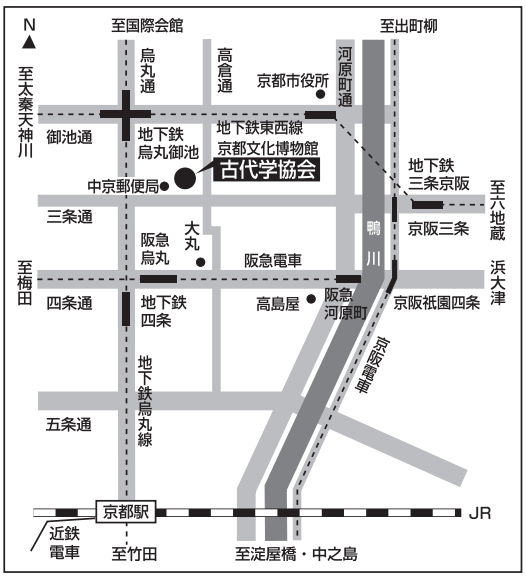
1965（昭和40）年に日本銀行京都支店の移転に伴い、1967（昭和42）年４月、当協会が日本銀行より旧店舗と敷地約1800坪を有償譲渡され、平安博物館として1968（昭和43）年５月オープンした。

1969（昭和44）年３月、重要文化財に指定されている。

（煉瓦造、建築面積884.1平方メートル、二階建、一部地下一階、スレート葺、両翼塔屋付。

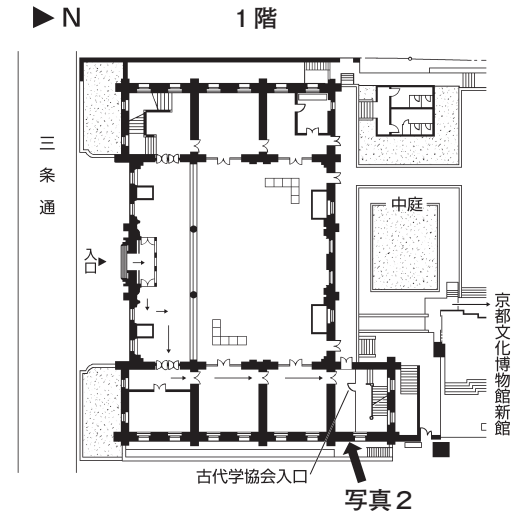
袖塀付属附旧金庫、１棟　石造、建築面積181.0平方メートル、一階建）

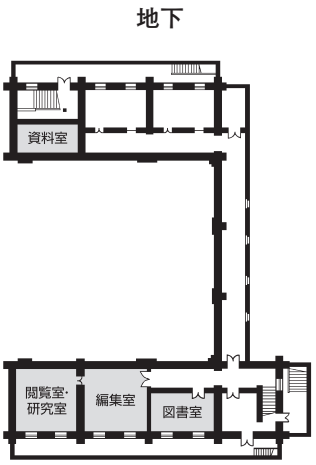
1986（昭和61）年４月、文化財指定物件の永久的保存を願った当協会は、この建物を京都府に移管し、1988（昭和63）年10月からは京都府京都文化博物館別館として活用され、その一部で当協会は業務を行うこととなった。



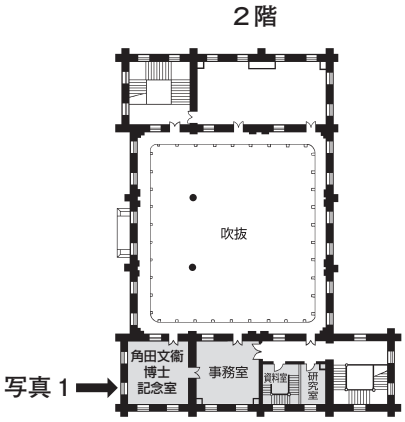
このあたりは、『六角堂縁起』によると、1200年あまり前、愛宕郡折田郷土車里（おたぎぐんくしだのごうつちぐるまのさと）と呼ばれていたと言う。これにちなみ、古代学協会だよりは『土車』とした。この地名は桓武天皇の平安遷都以来なくなってしまい、平安時代は、左京三条四坊四町にあたり、後期には後白河天皇の皇子・以仁王や皇女・式子内親王の邸宅、高倉宮となった。

施設平面図（京都文化博物館別館）





が古代学協会の施設



角田文衛博士記念室

写真２　入口から 左:事務室へ 右:地下研究室へ

Ⅲ　平成29（2017）年度事業概要

1．理事会・評議員会

・平成29年度第１回定例理事会（平成29年５月26日）
〔主な議決事項〕平成29年度事業報告・決算報告
・平成29年度定時評議員会（平成29年６月16日）
〔主な議決事項〕平成29年度事業報告・決算報告、任期満了に伴う評議員・理事・監事の選任
・平成29年度第１回臨時理事会（平成29年６月20日）議決の省略による開催
〔主な議決事項〕理事長、理事長補佐・議長代行者、業務執行理事の選定
・平成29年度第２回定例理事会（平成30年２月16日）
〔主な議決事項〕平成30年度事業計画・収支予算
・平成29年度第１回臨時評議員会（平成30年３月９日）
〔主な議決事項〕平成30年度事業計画・収支予算、定款変更、評議員１名の選任

2．決　　算

貸借対照表の要旨

（平成30年３月31日現在）　　（単位：千円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
流　動　資　産	26,504	流動負債	4,634
固　定　資　産	331,331	固定負債	0
基本財産	1,200	負債合計	4,634
特定資産	240,795	指定正味財産	139,026
その他固定資産	89,336	（基本財産充当額）	1,200
		（特定資産充当額）	137,826
		一般正味財産	214,175
		（基本財産充当額）	0
		（特定資産充当額）	102,968
		正味財産合計	353,201
合　　計	357,835	合　　計	357,835

正味財産増減計算書の要旨

自　平成29年４月１日
至　平成30年３月31日

（単位：千円）

科　　目	金　　額
経常収益	29,203
経常費用	30,968
（うち事業費）	27,976
（うち管理費）	2,992
経常外収益	0
経常外費用	0
法人税、住民税及び事業税	70
当期一般正味財産増減額	△ 1,835
当期指定正味財産増減額	△ 7,713

３．角田文衞博士顕彰事業

（１）第７回「角田文衛古代学奨励賞」

〔賞の趣旨〕

平成22年に当協会が創立60周年の年を迎えたことを記念し、当協会の創立者・故角田文衛博士の名を冠した角田文衛古代学奨励賞を創設。

本賞は、季刊『古代文化』への投稿原稿の中から秀作を選んで表彰し、古代史研究の奨励と若手研究者の支援を意図するものである。

佐々木理事長補佐から賞状を受け取る本庄総子氏

〔選考の経過〕

第７回は『古代文化』第67巻（平成27年）～第68巻（平成28年）までの２ヶ年分の投稿論文のうち、『古代文化』編集委員・編集参与・編集協力委員等68名の委員から推薦を受けた論孜・研究ノートを対象とし、編集委員・編集参与を構成員とする選考委員会での審議を経て選考された。

授賞式は平成29年10月７日佛教大学四条センターにおいて執り行われ、賞状、副賞（研究奨励金）、記念品（角田文衞著『古代学の展開』、山川出版社、2005年）が贈られた。

〔受賞者・受賞論孜・略歴〕

本庄　総子（ほんじょう　ふさこ）

「奈良時代の解由と交替訴訟」（『古代文化』第68巻第２号、2016年９月）

1982年京都府八幡市生、日本学術振興会特別研究員（奈良女子大学）

〔受賞理由〕

律令国家は、地方行政単位である国の行政官として、中央から国司を派遣した。解由とは国司交替の際の交替手続きのことで、事務引き継ぎ文書が解由状である。桓武期に解由状を監査する令外官として勘解由使を設置されることは、当該期の地方行政改革に関する重要事項として、高校の日本史教科書にも取り上げられる。

しかし、従来、桓武期以前の解由制度に関しては専論はなく、桓武期以後との対比で、漠然と未熟性が強調されるばかりであった。本論文は、かかる研究状況の克服を目指したものである。

著者は、まず、奈良時代の解由は、解由未取得者に上日を認めず考選から排除する制度だった、と主張し、天平一七年（745）の公廨設定の意義を再検討する。さらに、天平宝字二年（758）の明法曹司論定を読解し、交替訴訟の多発を、交替制度の機能不全ではなく、官物填納強化を示す現象として捉え直した。

本論文の特徴は、難解な法制史料を精密かつ着実に読み解き、新たな史実を発見した点にある。筆者は、学位論文「日本古代における律令行政の研究」で京都大学文学研究科から課程博士号を授与されている。また既発表論文には、本論文で取り扱った地方行財政制

度の他に、律令籍帳制、『令集解』に関する成果があり、いずれも精度の高い実証研究として、既に高い評価を得ている。

律令制度史研究、特に地方行財政研究は、重厚な研究史を有する。「角田文衞古代学奨励賞」の受賞を契機に、先行研究の高い壁を乗り越え、著者が研究を益々発展させることを期待するものである。

◇主な著作・論文等

・「税帳と税帳使―大租数文と官稲混合を中心に―」（『日本研究』51巻、2015年３月）
・「大宝二年戸籍と寄口―造籍原理とその転換―」（『史林』98巻６号、2015年11月）
・「律令国家と「天平の転換」―出挙制の展開を中心に―」（『日本史研究』655号、2017年３月）

◆第１回受賞者

東村純子氏（日本学術振興会特別研究員（国立民族学博物館））
「輪状式原始機の研究」（第60巻第１号、2008年６月）
土口史記氏（日本学術振興会特別研究員（京都大学人文科学研究所））
「先秦期における「郡」の形成とその契機」（第61巻第４号、2010年３月）

◆第２回受賞者

樋口健太郎氏（大手前大学非常勤講師）
「藤氏長者宣下の再検討」（第63巻第３号、2011年12月）

◆第３回受賞者

中村耕作氏（國學院大學文学部助手）
「土器カテゴリ認識の形成・定義―縄文時代前期後半における浅鉢の展開と儀礼行為―」（第64巻第２号、2012年９月）

◆第４回受賞者

久米舞子氏（国際日本文化研究センター　プロジェクト研究員）
「平安京『西京』の形成」（第64巻第３号、2012年12月）

◆第５回受賞者

関根章義氏（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課主事）
「古代陸奥国における陶硯の受容と展開―城柵官衙遺跡を中心として―」（第66巻第３号、2014年12月）

◆第６回受賞者

藤山龍造氏（明治大学文学部准教授）
「砥石から読み解く骨角器生産―栃原岩陰遺跡を中心に―」（第66巻第１号、2014年６月））

（所属は受賞時）

（2）角田文衛第二著作集『角田文衛の古代学』の編纂

『角田文衛の古代学』全４巻　１『後宮と女性』、２『王朝の余芳』、３『ヨーロッパ古代史の再構成』、４『角田文衛自叙伝』

責任編集：山田邦和（協会参与・同志社女子大学教授）、吉川真司（協会参与・京都大学教授）、編集実務：山﨑千春

平成29年度は本格的な編集作業に入り、４『角田文衛自叙伝』を刊行、１『後宮と女性』の編集作業を行った。

編集・発行：（公財）古代学協会、販売：吉川弘文館、価格：5000円（税別）

◆『角田文衛の古代学４　角田文衛自叙伝』

刊行：平成29年10月31日

判型：Ａ５判、上製・カバー装、406頁

内容：自叙伝、年譜を主としつつ、初期論文を加え、さらに古代学協会、平安博物館、勧学院大学といった、博士が生涯にわたって追究してきた理想の研究機関の構想についての資料を集成。

◆『角田文衛の古代学１　後宮と女性』

刊行：平成30年９月を予定

内容：後宮とその文化、日本史上の女性についての論攷を集成。

（3）奨励研究員の公募

創立者である角田文衛博士が「歴史学・考古学を駆使した古代史の研究と人材の育成」を目的とされていたことを継承し、また、外部研究員との連携により古代学研究推進のために、若手古代史研究者への支援の意味を込めて平成24年度より公募を開始した。

平成29年度の公募は行わなかった。

４．研究事業

（1）〔研究題目〕**火の使用（礫群・炉・被熱石器）からみた岩宿時代集落の研究**

〔研究代表者〕鈴木忠司

〔研究協力者〕徳永　裕・坂下貴則・平山尚言・林浩世・工藤敏久

①研究の目的

１）砂岩使用礫群の使用回数推定法については問題をクリアーしたので、チャート・凝灰岩使用礫群においてもこれを可能にし、推定法の全国適用を目指す。

２）岩宿時代集落における礫群存在の意義の解明。

３）石器石材の被熱現象発現のメカニズム把握とそれを通じた火処の推定と集落構造、火の使用実態の解明。

４）石器だけによる半集落論を脱し、礫群・火の使用など総合的な資料評価による集落論の提示。

②平成29年度の研究概要

今年度は、石蒸し調理実験の実施と実験場所を横浜市埋蔵文化財センターへ移して実施することを中心的な課題とした。

６月１日（木）：横浜市埋蔵文化財センターにて、横浜会場での実施について課題を打ち合わせ。

９月３日（日）：横浜市歴史博物館にて、横浜会場実験のスタッフに対し、実験の手順・留意点・意義などについてレクチャーを行う。

11月２日（木）：高槻市芥川にて、実験使用の礫採集。

11月11・12日（土・日）：横浜市埋蔵文化財センターにて実験本番実施。

石蒸し調理実験とは別に、かねてより借用研究中であった鎌ヶ谷市東林跡出土遺物、佐倉市西御門明神台遺跡の研究を継続実施した。

12月22日：佐倉市教育委員会へ借用中の西御門明神台遺跡の出土遺物の返却。

③平成29年度の研究成果発表

・鈴木忠司・坂下貴則・礫群調理実験グループ「石蒸し調理実験報告2016―小規模礫群調理および石器石材加熱実験４）をめぐって―」、『初音』７、2017年。

・鈴木忠司・手島美香「千葉県東林跡遺跡および茨城県赤岩遺跡出土資料の基本データ」、『初音』７、2017年。

・鈴木忠司・安蒜政雄・坂下貴則・飯田茂雄「砂川1968年、補遺「礫群」」、『考古学集刊』、2017年。

・鈴木忠司「東林跡遺跡上層ムラの礫・石器分布とその関係」、『鎌ヶ谷市史研究』第30号、2017年。

（２）〔研究題目〕**『村上天皇御記』逸文の校訂・注釈研究**

〔研究代表者〕古藤真平（古代学協会　研究員）

①研究の目的

平安時代前期に摂関政治が成立・展開する中で、宇多天皇・醍醐天皇・村上天皇は親政を行った君主として評価されている。この三天皇が書いた日記は「三代御記」と尊ばれたが、自筆本は遺らず、自筆本を書写した本に由来する写本も現存しない。その逸文を集成する試みは、江戸時代後期の国学者中津広昵に始まり、近代初期の碩学和田英松氏が増補を行い、それが今日の研究の基盤となっている。本研究では、村上天皇の日記の逸文を対象とし、校訂本文と略注の作成を行うことを目的とする。

②平成29年度研究概要

国書逸文研究会京都例会の場で、所功氏が和田氏の業績を継承して編集した『三代御記逸文集成』（国書刊行会、1982年）をテキストとする三代御記逸文の講読が輪読形式で行われており、そこに参加している。本年度においては、同例会で古藤が過去に講読発表を行った『村上天皇御記』の逸文について、校訂本文と略注の作成を行うと共に、現在進め

られている『村上天皇御記』逸文講読の新規分担発表を次の通り行った。平成29年７月21日：天徳４年11月１・４・７日条。

③平成29年度の研究成果発表

講演「紀伝道の学問と試験―菅原道真が学び、教えた大学の学科―」

（古代学協会公開講演、平成29年10月７日、於：佛教大学四条センター）

（3）〔研究題目〕<u>平安時代緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究</u>

（科研費基盤研究Ｃ平成29～31年度）

〔研究代表者〕石井清司（古代学協会　客員研究員）

〔共同研究者〕網　伸也（近畿大学教授）・市川　創（古代学協会　客員研究員）・植山　茂（古代学協会　客員研究員）・岡島陽子（京都大学大学院）・白石　純（岡山理科大学自然科学研究所教授）・高橋照彦（大阪大学教授）・田中由理（(公財)元興寺文化財研究所研究員）・新田和央（京都市文化市民局）・村野正景（京都文化博物館）・山田邦和（同志社女子大学教授）・吉川真司（京都大学大学院教授）

①研究の目的

平安期を特徴づける焼き物のひとつに、緑釉陶器がある。石作窯、小塩窯は、この緑釉陶器の生産遺跡と目され、生産実態を解明することを目指し、1979年度に当協会が発掘調査を実施したものである。このうち、２基の窯跡を検出することができた石作窯については、緑釉陶器の生産技術（窯および窯道具）と製品を総体的に把握することができるという意味で学術的意義が高く、基準資料として位置づけられている。

こうしたことから、早期の報告書刊行が望まれてきたが、諸事情があり現在まで刊行を行うことができていない。そこで、今日的な研究状況を踏まえ調査成果と遺跡の意義を再評価・深化して総括し、報告書を刊行することを本研究の目的とする。

②平成29年度の研究概要

既往の発掘成果の詳細な再調査については、石井（研究代表者）を主担当、市川（研究分担者）を副担当として実施した。具体的には、(公財）古代学協会が発掘調査を実施した石作窯について、遺物実測図や遺構図のトレースといった報告書刊行に向けた基礎作業と、それらをもとにした操業年代の再検討などを進めた。その検討状況については、平成29年12月23日（土）（於：古代学協会）に専門家による検討会を実施し、検証を行った。また緑釉陶器生産における特色である小型窯については、近年の良好な類例を踏まえた検討を行うとともに、亀岡市における小型三角窯の再現実験へ参画したことの知見も活かして、検討を進めた。

緑釉陶器と緑釉瓦の総括的比較検討については、平成29年度は、瓦陶兼業窯と評価されている大阪府吹田市所在の吉志部瓦窯出土遺物について、未報告資料を含めた綿密な調査を実施した。その結果、従来知られていなかった知見を得ることができ、平成31年度に刊行予定の報告書で反映したいと考えている。そのほか、下記の調査を行った。

・平成29年６月28日　大阪府八尾市小阪合遺跡（第40次調査）出土緑釉陶器の調査（於：八尾市埋蔵文化財調査研究センター）
・平成29年７月21日　京都市栗栖野窯跡・灰方窯跡出土遺物出土の緑釉陶器の調査及び研究会（京都市埋蔵文化財研究所　深草収蔵庫・水垂収蔵庫）
・平成29年８月19日　愛知県春日井市桃山窯跡などの出土遺物の調査（於：愛知県春日井市中央公民館）
・平成29年９月８日　滋賀県甲賀市水口町春日北遺跡の出土遺物の調査（於：滋賀県安土考古博物館）、滋賀県蒲生郡日野町作谷窯跡の出土遺物の調査（於：日野町役場）
・平成29年10月21日　平城宮・京、寺院出土の緑釉瓦・施釉陶器の調査及び研究会（於：奈良文化財研究所）
・平成29年11月19日　愛知県瀬戸市高蔵寺２号窯出土遺物の調査及び研究会（於：愛知県陶磁器美術館）
・平成29年12月２日　大阪府吹田市吉志部瓦窯跡出土、緑釉陶器・瓦、窯道具の調査（於：吹田市立博物館、岸辺神社）。平成30年２月13日に追加調査。
・平成29年12月８日　大阪府吹田市吉志部瓦窯跡出土、緑釉陶器・瓦、窯道具の調査（於：大阪府教育委員会　池上収蔵庫・東大阪収蔵庫）。平成30年３月９日に追加調査。
・平成30年３月20日　興福寺一乗院出土遺物調査（於：奈良文化財研究所）

理化学的分析の推進と方法論の検証については、平成29年度は基礎データの収集に努め、研究分担者である白石を中心として、京都府所在の栗栖野・灰方窯跡、滋賀県所在の春日北窯跡・作谷窯跡について、蛍光Ｘ線分析による分析を実施した。

また、協働型研究会を下記の通り開催した。

・平成29年８月５日　石井清司「平安京近郊の緑釉陶器の生産窯の現状報告」（於：古代学協会）

③平成29年度の研究成果発表

論文発表

・石井清司「緑釉陶器生産の再検討：平安京近郊窯を中心にして」、『洛北史学』19号、2017年
・白石純「須恵器の胎土」、『季刊考古学』142号、2018年

学会発表

・高橋照彦「古代末期における窯業生産の変容―丹波・篠窯の須恵器・瓦・緑釉陶器を中心に―」、九州史学会大会、2017年
・市川創「「緑釉単彩陶器」再論」、都城制研究会、2018年

出版

・高橋照彦ほか『日本古代交流史入門』、勉誠出版、2017年

平成29年12月23日　専門家を招いての検討会の様子

平成29年９月９日　作谷窯跡の出土遺物の調査

（４）〔研究題目〕近世上方の屋瓦に関する基礎的研究

（平成28～30年科学研究費　基盤研究(C)、課題番号16K16948）

〔研究代表者〕市川　創（古代学協会　客員研究員）

①研究の目的

江戸時代に上方と呼ばれた畿内地域は、「天下の台所」大坂を中心として、商工業の発展により経済的に繁栄した。このうち手工業については、モノを生み出す産業でありながらその歴史的評価に関わる研究は文献資料を中心とし、考古学的実証に乏しい。

こうしたことから、本研究は江戸時代における手工業生産のうち発掘調査でとりわけ豊富に出土する瓦を対象とし、考古学的手法を用いて基礎研究を行うことで瓦当文様や製作技法の時期的変遷及び資料の分布範囲を明らかにし、近世の瓦を歴史資料として適切に評価することを目的とする。ひいては、文献史学との協業により近世産業構造に関する研究の深化を期する。

②平成29年度の研究概要

各地での資料調査を実施するとともに、研究集会の実施に尽力し、かつ研究協力者による文書の翻刻、研究補助員を雇用しての整理作業などを行った。

このうち資料調査については、四国などを中心に実施した。その結果、高知城で１７世紀の段階から大坂の瓦が搬入されている状況を確認することができた。

研究集会については、「幕藩体制下の瓦」と題して研究代表者が所属する埋蔵文化財研究会の催しとして実施し、研究代表者はその企画、立案、実施にあたり主体的な役割を果たした。研究集会では、これまで大局的な視野から評価されることの少なかった近世瓦について、研究代表者を含む各地域からの報告を得ることで、全国的な視野からの総合を試みた。また資料編として、全国の遺跡から出土している刻印瓦を集成した。これらにより、資料集は800頁を超える充実したものとなった。台風の影響によりパネルディスカッションを中止せざるを得なかったことが悔やまれるが、近世瓦研究において大きな進展があったものと考える。また刻印瓦を集成するなかで、新たに新潟県の新発田城などからも大坂

産の瓦が出土していることが明らかとなった。これらについては、平成30年度に資料調査を行い、知見を深めたいと考えている。

また、近世の大坂で「三町人」と称された寺島家に関わる文書のうち、翻刻が公表されていない資料群について、研究協力者による翻刻作業を進めた。平成30年度にその分析を進めたい。そのほか、研究補助員を雇用し、資料調査データの整理や、近世瓦の全国的な集成作業を進めた。

・平成29年５月27日　大坂蔵屋敷資料の調査（於：大阪市住まいのミュージアム）、伏見城・淀城の出土瓦の調査（於：京都市考古資料館）
・平成29年７月４日　高知城瓦の調査（於：高知城歴史博物館・高知県文化財団埋蔵文化財センター）
・平成29年８月26日　京都市寺町旧域出土資料の調査（於：京都市埋蔵文化財研究所　鳥羽事務所）
・平成29年10月24日　大阪府吹田市立博物館における展示資料の調査
・平成29年10月28日　京都市寺町旧域出土資料の調査及び検討会
・平成30年２月３日　大阪府泉南郡岬町谷川地域生産瓦の調査（於：大阪府泉南郡岬町岬の歴史館）
・平成30年２月12日　大阪市立大学による特別史跡大坂城跡の地下探査に参加

大坂出土の軒平瓦
（『住友銅吹所跡発掘調査報告』より）

大坂産と目される高知城出土の軒平瓦
（『高知城伝下屋敷跡』報告書より）

岬の歴史館の瓦の製作道具など

③平成29年度の研究成果発表

論文発表

・市川創「大坂における近世瓦の生産と流通」、『第66回埋蔵文化財研究集会資料集』、2017年

学会発表

・市川創「大坂における近世瓦の生産と流通」、第66回埋蔵文化財研究集会、2017年

５．『古代文化』刊行事業

（１）編集委員会（平成29年度）

編集委員12名、編集参与17名による編集委員会を月１回開催。編集協力委員39名の協力を得ながら、編集方針の決定、特輯の企画、投稿原稿の査読講評、掲載論文の決定等を行う。（所属は平成30年３月31日現在）

◇編集委員　委員長　米田　雄介（（公財）古代学協会：日本史）
主　任　鈴木　忠司（（公財）古代学協会：日本考古学）
大野　　薫（大阪府立狭山池博物館：日本考古学）
古藤　真平（（公財）古代学協会：日本古代史）
角谷　常子（奈良大学教授：中国古代史）
高橋　克壽（花園大学教授：日本考古学）
西野悠紀子（女性史総合研究会代表：日本古代史）
毛利　憲一（平安女学院大学准教授：日本古代史）
森岡　秀人（関西大学非常勤講師：日本考古学）
門田　誠一（佛教大学教授：東アジア考古学）
吉野　秋二（京都産業大学教授：日本古代史）
若井　敏明（佛教大学非常勤講師：日本古代史）

◇編集参与
市　　大樹（大阪大学准教授：日本古代史）
栗原　麻子（大阪大学准教授：古代ギリシア史）
桑山　由文（京都女子大学准教授：ローマ史）
今　　正秀（奈良教育大学教授：日本古代・中世史）
桑原　久男（天理大学教授：日本考古学）
佐々木達夫（（公財）古代学協会：考古学）
鈴木　裕明（奈良県立橿原考古学研究所：日本考古学）
田中　俊明（滋賀県立大学教授：朝鮮古代史）
中砂　明徳（京都大学准教授：中国古代史）
中村　　大（立命館グローバル・イノベーション研究機構：日本考古学）
長村　祥知（京都文化博物館：日本古代・中世史）
野口　　実（京都女子大学名誉教授：日本古代・中世史）
古市　　晃（神戸大学大学院准教授：飛鳥・日本古代史）
宮本　純二（京都橘大学講師：エジプト学）
村野　正景（京都文化博物館：考古学）
山田　邦和（同志社女子大学教授：日本考古学）
吉川　真司（京都大学大学院教授：日本古代史）

書記　横大路綾子（（公財）古代学協会）
事務　麻森　敦子（（公財）古代学協会）

◇編集協力委員

北海道・東北：小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、斎野裕彦（仙台市教育委員会）、辻秀人（東北学院大学）

関　東：金子直行（（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、川尻秋生（早稲田大学）、車崎正彦（早稲田大学）、佐々木恵介（聖心女子大学）、寺前直人（駒澤大学）、比田井克仁（中野区教育委員会）、松木武彦（国立歴史民俗博物館）、三上喜孝（国立歴史民俗博物館）

中　部：伊藤雅文（（公財）石川県埋蔵文化財センター）、川添和暁（（公財）愛知県埋蔵文化財センター）、久田正弘（石川県教育委員会）、鈴木一有（浜松市教育委員会）、鈴木景二（富山大学）、中沢道彦（長野県）

近　畿：関川尚功（上牧町教育委員会）、山中　章（三重大学名誉教授）

中　国：今津勝紀（岡山大学）、大日方克己（島根大学）、野島　永（広島大学）、濱田竜彦（鳥取県教育委員会）、松本岩雄（島根県立八雲立つ風土記の丘）

四　国：寺内　浩（愛媛大学）、中村　豊（徳島大学）、村上恭通（愛媛大学）、

九　州：木下尚子（熊本大学）、坂上康俊（九州大学）、永山修一（ラ・サール学園）、松井和幸（北九州市立自然史・歴史博物館）、宮地聡一郎（福岡県教育委員会）、柳澤一男（宮崎大学）

海外領域：青山和夫（茨城大学）、川本芳昭（九州大学）、工藤元男（早稲田大学）、妹尾達夫（中央大学）、南雲泰輔（山口大学）、長谷川修一（立教大学）

（2）『古代文化』の刊行

第69巻１号
（平成29年６月）

立花大輔：新羅・古代日本における戸の編成―新羅村落文書の検討を通して―
轟　直行：菊川式土器の成立に関する研究
渡邉将智：范曄『後漢書』の人物評価と後漢中後期の政治過程

特輯　古代アメリカの比較文明論の新展開（下）

青山和夫：特輯『古代アメリカの比較文明論の新展開（下）』に寄せて
坂井正人：ナスカの地上絵と神殿―アンデス文明のイデオロギーと権力をめぐって―
瀧上　舞：アンデス文明における食性変化―ナスカ地域の事例より―
井上幸孝：植民地時代の先住民記録に見る先スペイン期の歴史像の形成
鈴木　紀：博物館の中のマヤ文明―表象と政治性―
上野勝之：〈研究ノート〉平安京左京四条一坊二町跡出土の墨書土器に関する一考察
田口愛実：〈註釈〉『小右記』註釈（９）―長和４年４月22日条―
春成秀爾：〈考古学人国記〉（13）今里幾次と播磨考古学（２）

山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（14）
下江健太：〈図版解説〉鳥取市青谷横木遺跡―「女子群像」板絵について―
中川　永：〈図版解説〉西側北遺跡における縄文時代草創期の竪穴建物跡
三舟隆之：〈書評〉竹内亮著『日本古代の寺院と社会』
西本昌弘：〈書評〉舘野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流・情報』１制度と実態

第69巻２号
（平成29年９月）

古田　幹：礫の使用状況と礫群の形成―泉水山・富士谷遺跡第16地区の事例から―
板垣優河：石器使用痕からみた打製石斧の機能―縄文時代生業の復元に向けて―
小黒智久：北陸北東部の古墳出現期社会と地域間関係、気候変動
高橋克壽：寄棟造家形埴輪の研究
坂本　翼：〈研究ノート〉回廊王権論―クシュの領域統治戦―
大谷久美子：〈註釈〉『小右記』註釈（10）―長和４年４月23・24日条―
栄原永遠男：〈学史〉薗田香融先生を偲んで
島津義昭：〈考古学人国記〉（14）小林久雄と九州縄文土器編年
濵　　修：〈私の古代学〉（８）琵琶湖を掘る
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（15）
伊藤　武：〈図版解説〉郡遺跡・倍賀遺跡の調査成果
亀谷弘明：〈書評〉田中禎昭著『日本古代の年齢集団と地域社会』
渡辺　滋：〈書評〉井上幸治著『古代中世の文書管理と官人』
森　公章：〈書評〉磐下　徹著『日本古代の郡司と天皇』
生島修平：〈書評〉西山良平・鈴木久男・藤田勝也編著『平安京の地域形成』

第69巻３号
（平成29年12月）

公益財団法人古代学協会：**第７回「角田文衞古代学奨励賞」受賞者発表**
花川真子：清和太上天皇の諸寺巡礼と仏教信仰
松島隆真：前漢郡国廟の設置とその意義
特輯　岩宿時代礫群研究の現在―資料提示と解析法の例示的提案―
鈴木忠司：特輯『岩宿時代礫群研究の現在―資料提示と解析の例示的提案―』に寄せて
古田　幹：礫群の形成状況の推定―泉水山・富士谷遺跡第31地区の事例より―

保坂康夫：礫群の使用回数論から形成回数論へ―居住期間・集団数と礫の抜き取り頻度の相関から―
竹内直文：礫群の重量分布から見た使用回数の試算
新田浩三：千葉県における礫群の推移
松本　茂：九州における礫群の出現と展開
中沢祐一：後期旧石器時代のヨーロッパにおける礫群―狩猟採集社会におけるストーンボイリングの役割と意義―
村野正景：〈史料紹介〉朝鮮絵巻
板井文子・飯塚ひろみ・横大路綾子：〈註釈〉『小右記』註釈（11）―長和４年４月25～27日条―
安里嗣淳：〈考古学人国記〉（15）多和田眞淳と琉球考古学編年
積山　洋：〈私の古代学〉（９）古代難波の考古学研究史を振り返って（２）―難波宮の調査・研究史（１）―
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（16）
市　大樹：〈書評〉俣野好治著『律令財政と荷札木簡』
高橋克壽：〈書評〉若狭徹著『前方後円墳と東国社会』
梶原義実：〈書評〉須田勉著『国分寺の誕生古代日本の国家プロジェクト』
来村多加史：〈新刊紹介〉村元健一著『漢魏晋南北朝時代の都城と陵墓の研究』
大道和人：〈新刊紹介〉村上恭通編『モノと技術の古代史　金属編』
中村健二：〈新刊紹介〉佐賀市教育委員会編『縄文の奇跡！　東名遺跡歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル』

第69巻４号
（平成30年３月）

山本　尭：楚系青銅戈戟の系譜と展開
中村みどり：藤原師輔と内親王降嫁の現実
青山和夫：マヤ文明の地域間・遠距離交換の通時的研究―グアテマラ共和国セイバル遺跡の黒曜石製石器を中心に―
特輯　琉球弧における先史時代研究の新展開
山崎真治・宮城弘樹：特輯『琉球弧における先史時代研究の新展開』に寄せて
山崎真治：琉球弧における旧石器時代遺跡の諸相と特質
土肥直美：骨から見た沖縄の旧石器時代人
石堂和博　面　将道：種子島の旧石器時代遺跡と文化
黒住耐二：旧石器時代から縄文時代初期の貝類利用
横尾昌樹：うるま市藪地洞穴遺跡の発掘調査

山城安生・設楽博己：北谷町平安山原Ｂ遺跡出土の大洞系土器
宮城弘樹：宮古・八重山諸島の人類史
飯塚ひろみ・西山史朗・若菜益冶：〈註釈〉『小右記』註釈（12）―長和４年４月28～30日条―
梶川敏夫：〈考古学人国記〉（16）木村捷三郎―遺瓦研究とその生き方―
松浦俊和：〈私の古代学〉（10）昭和40年代後半以降の官衙遺跡の調査―滋賀県湖西南部・湖南地域を中心に―
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（17）
入江俊行：〈図版解説〉ケカチ遺跡と和歌刻書土器について
岩田真由子：〈書評〉佐伯智広著『中世前期の政治構造と王家』
河原梓水：〈書評〉今泉隆雄著『古代国家の東北辺境支配』
山本孝文：〈新刊紹介〉土田純子著『東アジアと百済土器』
家原圭太：〈新刊紹介〉海野聡著『古建築を復元する　過去と現在の架け橋』

６．普及事業

（１）公開講演会

・“第７回角田文衞古代学奨励賞受賞記念講演”
本庄総子（日本学術振興会特別研究員）
「官僚が古代を映す
―奈良時代における国司交替からのヒント―」
・公開講演会
古藤真平（当協会研究員）
「紀伝道の学問と試験
―菅原道真が学び、教えた大学の学科―」
日時：平成29年10月７日（土）13：00～14：30
場所：佛教大学四条センター
参加人数：約60名

本庄総子氏による記念講演会

古藤真平研究員による公開講演会

（2）公開講座等

1）古代学講座

平成23年度よりスタートした。少人数で楽しく受講できる内容であるとともに、継続講座をいくつか設け、単に先生の話を聞くだけでなく、積極的な学びの場を提供している。

◆平成29年度前期講座（平成29年４月～７月、９月）

講座名	講　師	開催日
『小右記』講読　（入門） ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	第２水曜日
『小右記』講読　（中級） ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	第２土曜日
院政期の京都３	山田　邦和 （同志社女子大学教授）	第３金曜日
日本考古学上の大論争と争点の学説を紐解く２ Ａ日程	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	第３水曜日
日本考古学上の大論争と争点の学説を紐解く２ Ｂ日程	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	第４水曜日
道綱母の和歌を読む	中　周子 （大阪樟蔭女子大学教授）	第４土曜日
古代エジプトのパピルスを読む ―ヒエログリフ入門―	小山　雅人 （元京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第一課長）	第４土曜日
仏像の東漸 ―インドから中国へ―	金子　典正 （京都造形芸術大学教授）	4/1、5/6、 6/3、7/1
考古学成果から見た京都の歴史	梶川　敏夫 （元京都市埋蔵文化財研究所次長）	第２水曜日

※日付のないものは５回

◆平成29年度後期講座（平成29年10月・11月～平成30年１月～３月）

講座名	講　師	開催日
『小右記』講読（入門） ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	第２水曜日
『小右記』講読（中級） ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	第２土曜日
地震考古学で21世紀の大地震を考える	寒川　旭 （産業技術総合研究所名誉リサーチャー）	12/1、2/9、 3/9
院政期の京都４	山田　邦和 （同志社女子大学教授）	第３金曜日
遺跡発掘調査成果から見た京都の歴史	梶川　敏夫 （元京都市埋蔵文化財研究所次長）	第２水曜日
日本考古学上の大論争と争点の学説を紐解く３ Ａ日程	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	第３水曜日
日本考古学上の大論争と争点の学説を紐解く３ Ｂ日程	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	第４水曜日
大斎院（選子内親王）の和歌を読む	中　周子 （大阪樟蔭女子大学教授）	10/28、11/25、 1/27、2/24
古代エジプトのパピルスを読む ―ヒエログリフ入門―	小山　雅人 （元京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第一課長）	第４土曜日
シルクロードがつなぐ復活再生信仰 ―ミイラ、仙人、パルメット文様から―	大形　徹 （大阪府立大学教授）	第１土曜日

※日付のないものは５回

森岡秀人先生の講座の様子

梶川敏夫先生によるフィールドワーク

◆古代学サロンの開催

森岡秀人講師の講座受講者からの要望を受け、講師と講座担当で企画した。

日頃の講座とは違うサロン的な雰囲気の中で開催できるよう、定員を18名に設定。先生にざっくばらんに質問ができ、受講者同士の交流も図れたと参加者から好評を得た。

日　　時：９月14日　13：00～14：30

会　　場：古代学協会２階　角田文衛博士記念室（講座室）

2）連携講座

【佛教大学四条センター提携講座】

古代学講座は、講座室の関係で30人以上の受講が不可能なため、講座や古代学協会の裾野をより広げるために、他機関と連携した講座を開設。受講者は毎回80名以上となった。
会　場：佛教大学四条センター（京都市下京区四条烏丸北東角　京都三井ビルディング４階）

◆「古代の鏡入門講座」
講師　西川　寿勝（大阪府立狭山池博物館学芸員）
日時　平成29年５月24日、６月７日、７月５日、８月２日、９月６日
　　いずれも15時30分～17時

◆「平安王朝の世界Ⅱ」
講師　朧谷　寿（同志社女子大学名誉教授、古代学協会評議員）
日時　平成29年10月４日、11月１日、12月20日、平成30年２月７日、２月28日
　　いずれも15時30分～17時

（3）広報物の出版

１）『初音』７（平成29年８月30日発行、Ｂ５判、107頁）
・平成28年度事業報告
・研究報告
鈴木忠司・坂下貴則・礫群調理実験グループ：「石蒸し調理実験記録2016
　　―小規模礫群調理および石器石材加熱実験４）をめぐって―」
鈴木忠司・手島美香：「千葉県東林跡遺跡および茨城県赤岩遺跡の基礎データ」
森岡秀人：「近畿地方における初期農耕集落形成をめぐる考古学的研究〔予察〕」
２）古代学協会だより『土車』
第132号（平成29年６月20日発行、Ｂ５判、８頁）
第133号（平成29年12月20日発行、Ｂ５判、８頁）

（4）資料の活用・管理・整理

１）所蔵資料の活用

当協会では、創立以来、研究活動の為、文献・考古資料を収集してきた。資料は一部を京都府京都文化博物館に寄託し、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る閲覧や貸出及び掲載許可申請がある。（一部有料）

藤田勝也氏による資料調査の様子
（於：京都文化博物館）

平成29年度資料貸出等

利用形態	資料名	点類等	申請者	使用目的等
貸出	大島本　源氏物語	2	京都文化博物館	「京都だって猫展」（会期：平成29年４月29日～平成29年６月11日）
資料熟覧	大内裏図考証の付絵図、平安京条坊図	2	藤田勝也（関西大学環境都市工学部教授）	裏松固禅の住宅史に関する研究の一環
貸出	大島本　源氏物語	3	福岡市博物館	「よみがえれ！鴻臚館―行き交う人々と唐物―」（会期：平成29年９月７日～10月22日）
写真掲載	平安京跡調査報告第13輯『法住寺殿跡』巻頭図版Ⅰ～Ⅳ	4	（公財）元興寺文化財研究所	「鎮物としての武具」（会期：平成29年９月２日～９月24日）
写真掲載	平安博物館　内裏清涼殿実物大復元模型	1	（株）新泉社	山田邦和著『京都　知られざる歴史探訪』下巻（平成29年９月）
写真掲載	平安京跡調査報告第16輯『平安京左京八条三坊二町　第２次調査』図版60　75-5石鍋写真	1	（株）新泉社	シリーズ遺跡を学ぶ122『ホゲット石鍋製作遺跡』（平成29年10月）
貸出	大島本　源氏物語	2	京都文化博物館	「至宝をうつす―文化財写真とコロタイプ複製のあゆみ―」（会期：平成29年12月16日～平成30年１月28日）
写真掲載	角田文衛博士遺贈資料　二条基弘公爵あて坪井正五郎自筆書簡	1	平田　健（東京都教育委員会学芸員）	「明治期における華族の考古学研究」『史林』101-1号（平成30年１月）
写真掲載	大島本　源氏物語	2	国立大学東北大学オープンオンライン教育開発推進センター	ＭＯＯＣ講義教材コンテンツ（インターネット配信）
写真掲載	平安京豊楽院出土四天王寺同笵軒瓦（昭和48・52年調査）	3	（宗）四天王寺	「地中より湧出した難波の大伽藍―四天王寺の考古学―」（会期：平成30年３月11日～５月６日）

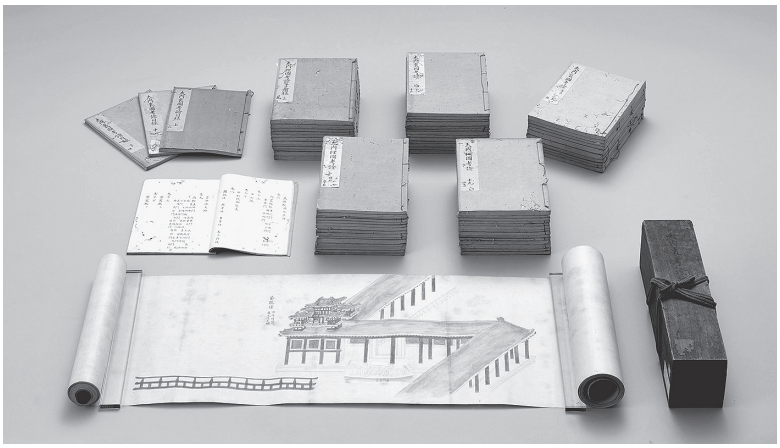
所蔵資料一覧

1．文献・絵画・彫刻等の資料

部類	資料名等		点数・員数	時代	
古文書	太政官謹奏写（天平宝字二年）		1・1紙	鎌倉	※
	近江国大国郷墾田立券文（延暦十五年）		1・1幅	平安	※
	大和国真菅老女墾田立券文写（延暦十九年）		1・1幅	江戸	※
	勅旨所牒（延暦八年）		1・1幅	鎌倉	※
	七条令解（延長七年）		1・1幅	平安	※
	七条令解（天暦三年）		1・1幅	平安	※
	七条令解（天元二年）		1・1幅	平安	※
	東大寺返抄（長保二年）		1・1幅	平安	※
	太政官牒（応徳三年）		1・1幅	平安	※
	僧長俊榲樽請文（天治二年）		1・1幅	平安	※
	法隆寺伝教院下文（天治二年）		1・1幅	平安	※
	畠直米請取状（長承二年）		1・1紙	平安	※
	大和国広瀬荘白米上納日記（長承～久安年間）		1・1幅	平安	※
	太政官牒（仁平元年）		1・1幅	平安	※
	高向依重事発日記（応保元年）		1・1紙	平安	※
	巻数案文書（嘉応二年）		1・1幅	平安	※
	勧修寺西院牒（寿永元年）		1・1紙	平安	※
	後白河院院宣（建久三年）		1・1幅	鎌倉	※
	沽却状（建久三年）		1・1幅	鎌倉	※
	北白河院陳子自筆御消息（寛喜三年）		1・1幅	鎌倉	※
	僧空寂書状（嘉禎四年）		1・1幅	鎌倉	※
	京・上京区下柳原町屋文書		61・56冊＋5袋	江戸	※
	山城国葛野郡西京村検地帳（延宝七年）		1・1冊	江戸	※
	太政官謹奏（文政元年五月二十八日）		1・1通	江戸	
典籍	『明月記』建保元年正月十六日条断簡　付妓女図	藤原定家筆	1・1幅	鎌倉	※
	『兵範記』切（仁安二年閏七月二十五日条）	藤原定家筆	1・1幅	鎌倉	
	魚魯愚鈔（明応三・五年写）	三条西実隆筆	10・10冊	室町	※
	続日本後紀巻七・八		1・1冊	江戸	※
	本朝皇胤紹運録		1・1冊	江戸	※
	大内裏図考証　付絵図　**右頁写真**	裏松固禅編	70・69冊＋1巻	江戸	※
	院宮及私第図	裏松固禅編	2・2巻	江戸	※
	拾芥抄（活字本）		6・6冊	江戸	※
	京兆図（享和三年写）		1・1図	江戸	※
	清獬眼抄（宝暦十一年写）		1・1冊	江戸	※
	聖蹟図志（安政元年）		2・2冊	江戸	※
	首註陵墓一隅抄（安政元年）		1・1冊	江戸	※
	集古浪華帖第一～五		5・5冊	江戸	※
	宇多天皇記略写本		1・1冊	江戸	
	経信卿記写本		2・2冊	江戸	
	三長記写本		2・2冊	江戸	
	舞楽図（元版文政六年刊）		2・2冊	近代	
	尚古図録		1・1冊	近代	
	輿車図考附図		2・2冊	近代	
地図・絵図類	平安京条坊図	伊藤東涯編	1・1幅	江戸	※
	京程図		1・1図	江戸	※
	左京図		1・1図	江戸	※
	大内裏図		1・1図	江戸	※
	内裏絵図（大工見取図）		1・1図	江戸	※
	宮殿図	紀宗直自筆	1・1図	江戸	※
	神泉苑差図写（長禄三年）		1・1図	江戸	※

部類	資料名等		点数・員数	時代	
	平安城東西南北町並図（寛永本）		1・1図	江戸	※
	京大絵図（元禄十二年）		1・1図	江戸	※
	洛中洛外図（享保六年頃写）		2・2図	江戸	※
	禁裏御用水筋並小山郷用水図		1・1図	江戸	※
	下鴨地検図（文化二年）		1・1図	江戸	※
	葛野郡西七・八条村図		1・1図	近代	※
	元治元年七月十九日京都大火之略図版画		1・1枚	江戸	
	山城国愛宕郡図版画		1・1図	江戸	
	大内裏惣図（天）		1・1図	江戸	
	八省院大図（地）		1・1図	江戸	
	御即位庭上図		1・1図	江戸	
	大和山陵図（水木コレクション）		1・1巻	江戸	
	道澄寺鐘銘拓本（水木コレクション）		1・1巻	近代	
文学書	源氏物語（青表紙本） 〔**重要文化財**。通称「大島本源氏物語」〕	飛鳥井雅康ほか筆	53・53冊	室町	※
	伊勢物語（天福本）	伝飛鳥井雅親筆	1・1帖	室町	※
	紫式部日記断簡		2・1巻※＋1片	南北朝	(※)
	紫式部集（安行君遺本）		1・1冊	江戸	※
	水鏡	伝寂蓮筆	1・1巻	室町	※
	栄花物語巻七～四十		14・14冊	江戸	※
聖教	大般若経巻第五百八十（永久三年）		1・1巻	平安	※
	大般若経巻第百三十五（久寿二年）		1・1帖	平安	※
絵画	鳥羽天皇宸影		1・1幅	平安	※
	承安五節図（寛政元年写）		1・1巻	江戸	※
彫刻	地蔵菩薩木像（水木コレクション）		1・1躰	平安	
その他	三上参次自筆書簡		1・1通	近代	
	黒板勝美自筆書簡		1・1通	近代	
	水木家宛書簡類（水木コレクション）		262・262通	近代	
	中村直勝自筆書簡		1・1通	近代	
	黒板勝美一行書		1・1幅	近代	
	内藤湖南漢詩		1・1幅	近代	
	紫野閑記（新村出筆ノート。付八木勇一書簡）		1・1冊	近代	

※は京都文化博物館寄託



大内裏図考証 付絵図（江戸時代）

前内大臣烏丸光栄の子として生まれた裏松光世（法明は固禅）（1736～1804）が、各種の古記録から平安京大内裏を考証した。

2．考古資料

	資　料　名	時代	点数	備　　考	
1	太田コレクション （丹生台地出土石器）		319	石器、銅剣、和鏡	※
2	円筒上層式土器	縄文時代	1	青森県天間林村二ツ森遺跡出土 角田文衛氏昭和13年発掘	
3	土偶	縄文峠代晩期	1	埼玉県岩槻市真福寺遺跡出土	※
4	埴輪（男子頭部）		1	関東地方出土	※
5	埴輪（頭部）		1		
6	馬形埴輪	6世紀	1	出土地不詳　高76cm	※
7	陶製骨壺	奈良時代	1	宇治市木幡出土	※
8	皇朝十二銭		8	和同開珎、万年通宝、神功開宝、冨寿神宝、承和昌宝、長年大宝、貞観大宝、延喜通宝	
9	松喰鶴鏡	平安時代	1		※
10	貨幣模造品		1	開基勝宝（岩倉精密鋳造）	※
11	鬼瓦（複製）	平安時代	1	原資料 平安宮朝堂院跡出土	※
12	貨幣模造品		1	開基勝宝	※
13	中国古銭集成		120	寛永通宝含む	
14	韓国慶州出土軒丸瓦	新羅時代（8世紀）	1		
15	タンザニア・ オルドヴァイ遺跡出土石器類		10		※
16	タンザニア出土石器類		5		※
17	ケニア出土石器類		1		※
18	フランス旧石器コレクション	前期旧石器～ 後期旧石器時代	61		※
19	デンマーク石器コレクション	中石器～ 青銅器時代	32		※
20	デンマーク出土石器類 （北欧新石器）		20		※
21	デンマーク出土石器類 （北欧新石器）		26		※
22	ミノス文化青銅器		3	短剣、銀斧、銅鍬か	
23	ローマ時代貨幣		19	金貨、銅貨	※
24	ユーリナ・ドムナ銀貨		1		
25	ユーリナ・ドムナ頭部像		1	大理石製	
26	金倉英一氏エトルリア、 ローマ文化コレクション		70		
27	エジプト・アコリス遺跡 発掘調査　出土品一括		30	土器、コプト織り断片等	
28	パピルス写本片葉 コプト文字法律書断簡		1		
29	シリア・パルミラの石器	中期旧石器～ 新石器時代	19		
30	ルリスタン青銅器		11	銅剣、銀斧、腕輪、ヘアピン、人形、動物像	
31	パキスタン・ソーアン遺跡 出土の旧石器コレクション	旧石器時代前期 （70～50万年前）	6		
32	仏頭		1	ガンダーラ出土か	※
33	骨壺	奈良時代末期	1	京都府乙訓郡長岡町井口出土	
34	灰釉壺	平安時代前期	1	京都市山科区御陵安祥寺付近出土	
35	銅製経筒	建久2（1191）年銘	1	福岡県太宰府町大字太宰府出土	
36	水木要太郎蒐集古瓦類	飛鳥時代～ 平安時代中期	15	古瓦14（単弁蓮華文軒丸瓦・飛鳥寺出土）等、瓦経1（伊勢市小町塚経塚出土）	

※は京都文化博物館寄託

2）図書資料の収集・活用

古代学協会がこれまで刊行してきた刊行物、角田文衞博士より寄贈された、国内外の貴重な図書、研究活動に必要な基礎図書及び、国内外から交換及び寄贈された最新の定期刊行物を一部公開している。

角田文衞博士から協会に寄贈された書籍については、整理され次第順次協会ホームページに一覧表を掲載する予定である。

平成29年度　交換・受贈逐次刊行物一覧

〈国内〉

青山学院大学史学会『史友』
青山学院大学日本文学会『青山語文』
青山学院大学日文院生の会『緑岡詞林』
青山学院大学文学部史学研究室『青山史学』
出光美術館『館報』『研究紀要』
岩手史学会『岩手史学研究』
大倉精神文化研究所『大倉山論集』
大阪大谷大学歴史文化学科『歴史文化研究』『志学台考古―年代・産地・分析等―』
大阪教育大学歴史学研究室『歴史研究』
大阪商業大学商業史博物館『紀要』
大阪商業大学比較地域研究所『地域と社会』
大阪大学国語国文学『語文』
大阪大学大学院文学研究科『待兼山論叢』
大阪府立大学上方文化研究センター『研究年報』
大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究　日本語日本文学編』
大阪府立大学大学院人間社会学研究科人間科学攻『大阪府立大学紀要　人間科学』
大阪府立大学日本言語文化学会『百舌鳥国文』
大妻女子大学『大妻女子大学紀要―文系―』
大妻女子大学国文学会『大妻国文』
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『紀要』
岡山理科大学『自然科学研究所研究報告』
学習院大学東洋文化研究所『調査研究報告』『東洋文化研究』
神奈川大学日本常民文化研究所『歴史と民俗　神奈川大学日本常民文化研究所論集』（発行所：平凡社）
神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター『年報　非文字資料研究』
金沢大学人文学類考古学研究室『金沢大学考古学紀要』
関学西洋史研究会『関学西洋史論集』
元興寺文化財研究所『研究報告』
関西大学国文学会『國文學』
関西大学史学・地理学会『史泉』
関西学院大学史学会『関西学院史学』
北九州市立自然史・歴史博物館『研究報告　B類歴史』
九州大学大学院人文科学研究院『史淵』
京都産業大学日本文化研究所『所報　あふひ』『紀要』
京都大学人文科学研究所附属東アジア情報学研究センター『東洋學文獻類目』
京都大学人文学研究所『東方學報』
京都橘大学大学院『研究論集　文学研究科』
京都橘大学文学部『京都橘大学歴史遺産調査報告』
京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府埋蔵文化財情報』
京都府京都文化博物館『朱雀』
京都府立総合資料館『資料館紀要』
宮内庁正倉院事務所『正倉院紀要』
宮内庁書陵部『書陵部紀要〔陵墓篇〕』
熊本史学会（熊本大学文学部内）『熊本史学』
藝林會『藝林』
皇學館大学研究開発推進センター『紀要』
皇學館大學史學会『皇學館史學』
皇學館大学人文学会『皇學館論叢』
考古学研究会『考古学研究』
神戸学院大学人文学部『紀要』
國學院大学大学院史学専攻大学院会『史学研究集録』
国文学研究資料館『調査研究報告』
国立歴史民俗博物館『研究報告』
古代学研究会『古代学研究』
「古代史の海」の会『古代史の海』
駒澤史学会　駒澤大学歴史学研究室『駒沢史学』
駒澤大学大学院史学会『駒澤大学大学院史学論集』
史学会『史学雑誌』
史学研究会『史林』
滋賀県立大学人間文化学部『人間文化』
信濃史学会『信濃』
下関市立考古博物館『研究紀要』
秀明文化財団『MIHO MUSEUM 研究紀要』
上智大学史学会『上智史學』
専修大学学会『専修人文論集』
専修大学歴史学会『専修史学』
崇城大学芸術学部『研究紀要』
大正大学史学会『鴨台史学』
大東文化大學漢學會『大東文化大學漢學會誌』
多摩考古学会『多摩考古』
地中海学会『地中海学研究』

千葉県立中央博物館『研究報告　人文科学』
地方史研究協議会『地方史研究』
中央大学文学部『紀要（史学）』
中信美術奨励基金『美術京都』
朝鮮学会『朝鮮学報』
筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻『歴史人類』『筑波大学　先史学・考古学研究』
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻『文藝言語研究　文藝篇・言語篇』
Doctoral Program in History and Anthropology, University of Tsukuba PRELIMINARY REPORT AKORIS
土浦市立博物館『紀要』
鶴見大学文化財学会『文化財学雑誌』
天理参考館『館報』
天理大学『学報　語学・文学・人文・社会・自然編』
東京国立博物館『紀要』『研究誌　MUSEUM』
東京大学史料編纂所『研究紀要』『所報』
東京文化財研究所『美術研究』
同志社大学人文学会『人文學』
同志社大学文化学会『文化学年報』
同志社大学歴史資料館『館報』
東北学院大学学術研究会『東北学院大学論集　歴史と文化』
東北学院大学東北文化研究所『紀要』
東北大学大学院文学研究科東北文化研究室『紀要』
東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室『日本思想史研究』
東北大学大学院文学研究科『研究年報』
東北大学東北アジア研究センター『東北アジア研究』
東洋史研究会『東洋史研究』
東洋大学『東洋大学文学部紀要（史学科篇）』
東洋大学白山史学会『白山史学』
東洋文庫『東洋学報』
読史会『お茶の水史学』
徳島大学埋蔵文化財調査室『紀要』
徳島文理大学文学部『徳島文理大学　文学論叢』
徳島文理比較文化研究所『年報』
長野県考古学会『長野県考古学会誌』
名古屋市博物館『研究紀要』
名古屋大学大学院文学研究科美学美術史学研究室『美学美術史研究論集』
『並木の里』の会『並木の里』
奈良女子大学史学会『寧楽史苑』
奈良大学文学部文化財学科『文化財学報』
奈良文化財研究所『紀要』
南山考古文化人類学研究会『南山考人』
新潟史学会『新潟史学』
日本印度学仏教学会『印度學佛教學研究』
日本オリエント学会『オリエント』
日本海事史学会『海事史研究』
日本史研究会『日本史研究』
日本人類学会ANTHROPOLOGICAL SCIENCE ANTHROPOLOGICAL SCIENCE（JAPANESE SERIES）
日本西洋史学会『西洋史学』
日本歴史学会『日本歴史』
花園大学史学会『花園史学』
東アジアの古代文化を考える会同人誌分科会『古代文化を考える』
東大阪市埋蔵文化財センター『年報』
平等院『鳳翔学叢』
広島史学研究会『史学研究』
佛教大学歴史学部『歴史学部論集』
文化史学会『文化史学』
法政大学史学会『法政史学』
法政大学文学部『紀要』
三田史学会『史学』
武蔵野大学武蔵野文学館『武蔵野文学館紀要』
武蔵野大学国文学会『武蔵野日本文学』
武蔵野大学日本文学研究所『紀要』
明治大学文学部考古学研究室『考古学集刊』
山形大学歴史・地理・人類学研究会『歴史・地理・人類学論集』
山口大学埋蔵文化財資料館『山口大学構内遺跡調査研究年報』
立正大学史学会『立正史学』
龍谷大学佛教文化研究所『紀要』
早稲田大学會津八一記念博物館『研究紀要』
早稲田大学大学院教育学研究科『紀要』
早稲田大学国文学会『国文学研究』
早稲田大学史学会『史観』
早稲田大学美術史学会『美術史研究』

〈海外〉

中国　中国社会科学院考古研究所『考古』『考古学報』。敦煌研究院『敦煌研究』。吉林大学『史学集刊』『吉林大学社会科学学報』。

台湾　国立台湾大学芸術史研究所『美術史研究集刊』。

韓国　国史編纂委員会『韓国史研究彙報』。忠南大学校百済研究所『百済研究』。

スロバキア　Archeologický ústav SAV Nitra, *SLOVENSKÁ ARCHEOLÓGIA*.

ドイツ　DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGISCHEN INSTITUT, *MITTEILUNGEN DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGISCHEN INSTITUTS RÖMISCHE ABTEILUNG*, RÖMISCH-GERMANISCHE KOMMISSION DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGICHEN INSTITUTS, *GERMANIA; BERICHT DER RÖMISCH-GERMANISCHEN KOMMISSION*.

トルコ　Turkish Historical Society, *BELLETEN*.
ハンガリー　Museum of Fine Arts, BUDAPEST（Szépmüvészeti Múzeum）, *BULLETIN DU MUSÉE HONGROIS DES BEAUX-ARTS*.
フランス　ACADÉMIE DES INSCRIPTIONS & BELLES-LETTRES, *COMPTES RENDUS DES SÉANCES DE L'ACADÉMIE DES INSCRIPTIONS & BELLES-LETTRES*.
École française d'Extrême-Orient, Paris, *BULLETIN DE L'ÉCOLE FRANÇAISE D'EXTRÊME-ORIEN*.

3）角田文衞博士遺贈資料の整理

角田文衞博士の遺族から寄贈された、書簡・写真・研究資料等を公開すべく整理作業を進めている。

7．その他

（1）他機関との協力事業等

【16学協会陵墓担当運営委員会】

・2017年12月22日　奈良県佐紀陵山古墳（日葉酢媛陵）西側渡土堤立会調査見学
・2018年２月23日　橿原市四条塚山古墳（現・綏靖天皇陵）立入り観察及び事後検討会

【一般社団法人日本考古学協会総会図書交換会への参加】

2017年５月28日　於：大正大学

【日本史研究会総会図書販売会への参加】

2017年10月８日　於：京都学園大学　京都太秦キャンパス

（2）ホームページ（https：//kodaigaku.org）

協会の基本情報、講座や講演会などの事業の案内。『古代文化』への投稿案内、バックナンバーから最新号までの総目次などの情報公開を行っている。

また、角田文衞博士の紹介ページでは、博士の著作目録、年譜などを掲載している。